

## 浄土院

浄土院の下位寺院は、高位の仏教僧栄久による寄付金をもとに、平等院が改築された1496年に完成しました。阿弥陀仏像、仏教神の帝釈天像、養林庵書院の襖絵など、数多くの文化財が収められています。

浄土院という名前は、仏教の浄土宗の名を踏まえたものです。浄土宗と天台宗は共に平等院を保全しています。浄土院の僧と、天台宗の最勝院の僧とは、17世紀末から平安建築（794—1185）の珍しい例である平等院を21世紀まで保護するために協力してきました。

茶道の名人である星野道斎は、1640年に息子たちと共に羅漢堂を建てました。宇治市の文化財に指定され、2015年に改築された羅漢堂には、羅漢像（arhats 阿羅漢）が安置されています。羅漢は、修行を完成させて悟りの境地に達した仏教の聖人と時に呼ばれます。さらに、羅漢堂の天井には龍が、また壁には神話上の生き物が鮮やかに描かれています。

浄土院には他にも慈悲の菩薩である観音が航海をしている像があります。この船乗り観音は、荒波の中小さい船を鼓舞菩薩の姿を捉えたもので、安全な旅を祈願するためのものでした。金を青で絢爛な装飾がなされています。江戸時代（1603—1867）にできた原物は盗まれ、今あるものは平等院建立950周年を記して2003年に完成しました。